

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2023年8月20日第33号 (通巻39号)
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通101-453
tel/fax:072-737-9454
mail: oribunokai@gmail.com
facebook: oribunokai



オスロ合意から30年

30年たってほとんどのパレスチナ人は、合意の破棄をもとめている。

パレスチナ政策調査研究センターが9月に行った世論調査で、オスロ合意がパレスチナの利益を害したと考える人が68%で、5年前の世論調査よりも、3パーセント増え、貢献していると考える人は、5%低下し、11%であった。さらに、調印したのは間違いと考える人は71%に上る、合意の破棄をもとめる人は、63%である。オスロ合意がパレスチナの人々に恩恵をもたらさなかったことは明確である。

イスラエルは、実質的にも、公然としてもオスロ合意を否定し、合意で規定されていた交渉は行われず、自治政府を、パレスチナの分断とイスラエルのための治安機関としてしか役割を見ていない。

イスラエル内では、オスロ合意を結んだイツハク・ラビンが2004年にユダヤ人によって暗殺され、2005年にアラファトも死去したが、暗殺の可能性もほのめかされている。第二次インティファダを通して、イスラエル内の世論は右傾化し、和平をもとめる労働党などの左翼

勢力は、議席を失い、西岸の併合を唱える右派リクードのネタニヤフが政権を握った。

2022年11月の選挙でネタニヤフは、極右勢力をともなって復活した。国際法において、違法とされる入植地を拡大し、占領軍と入植者たちが、西岸のパレスチナ住民に攻撃をしかけ、家をとこわし、土地を奪っている。

そこには、パレスチナとの共存は存在せず、西岸とガザに対するアパルトヘイト政策が残るだけである。パレスチナ自治政府にイスラエルが期待しているのは、イスラエルの代理人として、パレスチナ人を支配することだけであり、それが、イスラエル軍の下請けとしての治安共同であり、そのためだけに、パレスチナ人から支持されていない自治政府を維持しようとしている。

イスラエル国内では、ネタニヤフの”司法改革”に反対するイスラエル国民の抗議行動が拡大している。イスラエルの”民主主義”を否定するものとして、世俗的なイスラエル人が反発し、その抗議は、イスラエル軍内部にまで拡大している。

しかし、この”民主主義”は、パレスチナ人に適用されるものではなく、パレスチナに対しては、同じ立場に

オリーブの会通信 第34号(通巻40号)

立つものであり、イスラエルの政治危機は、パレスチナを有利にするものになっていない。

オスロ合意の背景

82年のイスラエル軍のレバノン侵攻で、拠点をPLOは失い、分裂した。多くは、隣国シリアに向かったが、アラファトなどPLOの指導部は、チュニジアに向かった。シリアに向かったパレスチナ勢力は、再びベカー高原にもどり、軍事闘争を継続したが、チュニジアに向かったPLOの指導部は、拠点を失い、政治交渉にかけられるようになった。このことは、パレスチナ解放運動の決定的な後退を作り出した。

しかし、87年在外パレスチナ勢力の後退の中で、占領地内の民衆が立ち上がり、第一次インティファダが闘われ、イスラエルを窮地に追い込んだ。この戦いでは、占領地内で統一指導部が形成され、在外での分裂にも関わらず、占領地の闘いは統一を生み出した。国際的な共感も生み出した。

ところが、1990年のサダム・フセインのクウェート侵攻にはじまる第一次湾岸戦争で、PLOは、サダム・フセインを支持し、アラブ世界でも孤立することになった。また、ソ連と東欧がゴルバチョフの登場で欧米との協調路線に踏み込み、パレスチナが後ろ盾を失うことになっていた。

そのような状況の中で、米国、イスラエルが主導するマドリード中東和平会議に参加をせざるを得なくなり、しかし、イスラエルはパレスチナの参加を認めず会議は、失敗したが、その裏で、これまで否定してきたイスラエルとの単独和平交渉が行われ、オスロ合意が生まれた。PLOが政治的にも劣勢となる中で、単独和平に進んだ。

第一次インティファダーが、イスラエルの思惑に吸収されてしまった。この交渉中で、PLOがイスラエルの存在を認めることと交換に、西岸、ガザにパレスチナ暫定自治政府を置くことを認めるというものであった。そして、多くの重要な問題が後回しとされることになった。

その後

イスラエル側では、オスロ合意を進めたラビンが、暗殺され、イスラエル国内では、労働党などの和平派が勢力を失い、リクードなどの右派政権を担うようになり、オスロ合意は形骸化されることになった。

パレスチナでは、オスロ合意は、パレスチナ内部での分裂をつくりだした。自治政府を構成するファタハとその他のパレスチナ勢力が対立することに。第一次インティファダで登場してきたイスラム抵抗運動(ハマス)が勢力を拡大した。

96年1月の最初の総選挙と自治政府大統領選挙では、

ハマスがボイコットしたためファタハが勝利し、アラファトが大統領となった。

2006年の総選挙が実施されたが、ハマスが勝利し、それを恐れたイスラエル、欧米の支持のもとに、ファタハはクーデターを起こし、西岸でハマスを追い出し、ハマスはガザを拠点とした。西岸とガザの分裂した状態が作られた。

それ以降大統領選挙・総選挙は行われていない。昨年、総選挙が予定されたが、エルサレムでの選挙ができないと停止された。また、今年初めの地方選挙では、ハマスが拒否した。

総選挙では、ハマスが勝利し、大統領選挙でも、アッバースとハマスのハニヤでは、ハニヤが勝利すると予想されていた、獄中のファタハのマルワン・バルグティが出れば、バルグティが勝利すると予測されていたが、バルグティの出馬は妨害された。

イスラエルは、アッバースの暫定自治政府を支持し、とくに治安共同の役割、すなわち、パレスチナ人によるパレスチナ人の弾圧が期待されていた。

パレスチナの分裂は、入植地の拡大、占領地の併合、パレスチナ住民の追い出し、住居の取り壊し、土地の没収とイスラエルの占領支配が強化されている

自治政府の治安部隊は、イスラエル軍とたたかわないが、イスラエル軍とジェニンで戦った戦士たちを拘束した。イスラム聖戦は戦士たちの釈放を要求したが、自治政府がそれに応じず、アッバースが呼びかけた書記長会議をボイコットした。

分裂は克服できるの？

このような状況の中で、パレスチナの民族的な統一が繰り返し叫ばれ、和解の会議がくり返し行われてきたが、失敗するしかなかった。

レバノンのアイン・エル・ヒルウェの武力衝突もその延長にあるキャンプの支配権を失いたくないファタハが、戦闘を激化させることに、ファタハの戦闘員はガザでの経験から防衛を行っている。

イスラエルの政治的な危機があるにも関わらず、何ら有効利用できていない。

権力を維持したい自治政府、ハマス。それに代わるものを民衆は求めており、西岸での武装抵抗の拡大は、その希望をあつめている。



世論調査、パレスチナ人の大多数がオスロ合意の破棄を望んでいることを確認

掲載日 09/14/2023 (最終更新: 09/14/2023 at: 20:50)

【ラマラ=マアン】パレスチナ政策調査研究センターは2023年9月6日から9日にかけて、ヨルダン川西岸地区とガザ地区におけるパレスチナ世論調査を実施した。

同センターによると、調査に先立つ期間には、オスロ合意調印30周年、イスラエル軍によるジェニンキャンプ侵攻と同キャンプのパレスチナ人住民12人の殺害、イスラエル軍撤退後のアッバス大統領の同キャンプ訪問など、多くの重要な動きがあった。この間、パレスチナの各派指導者はエジプトのエル・アラメイン市でアッバス大統領出席のもと会談したが、共同声明の発表で合意できなかった。この間、ヨルダン川西岸のパレスチナ人地区では入植者によるテロ行為が増加し、それに伴いパレスチナ人による入植者やイスラエル人に対する武力行為も増加した。

最後に、サウジアラビアとイスラエルの関係を正常化するための合意に向けたアメリカとサウジアラビアの交渉の存在や、この正常化合意に向けたパレスチナの条件を設定するためのパレスチナとサウジアラビア、パレスチナとアメリカの会議についての報道がなされた。この世論調査は、ヨルダン川西岸地区とガザ地区の一般的な状況、和平プロセス、和平プロセスが停滞している現状を踏まえたパレスチナ人がとりうる選択肢といった他の問題に加えて、これらすべての問題を対象としている。127の居住地で、1,270人の成人から無作為抽出し、対面インタビューを行った。誤差は±3%。

同センターは声明で、「オスロ合意30周年を記念して、この合意やその結果について、現在の立場を測定するための一連の質問を行った。30年前のオスロ合意に関する世論調査でもわかったように、3分の2弱の大多数が、現在の状況はオスロ合意実施以前よりも悪化していると考えている。その大多数が、オスロ合意に調印したのは間違いだったと考えている。世論調査では、大多数がパレスチナ自治政府にあの合意を破棄することを望んでおり、3分の2強があこの合意はパレスチナの利益を損ねたと考えていることがわかった。そして何よりも、4分の3以上の国民が、イスラエルはこの合意をすべて、あるいは

ほとんど履行していないと考えている。

さらに、「サウジアラビアとイスラエルの関係正常化の可能性が話題になっていることを踏まえ、世論調査では、この正常化がパレスチナとイスラエルの和平達成の可能性に与える影響についての意見を国民に尋ねた。大多数が、和平の可能性にとって有害であると答えている。

しかし、この結果は、ガザ地区の住民の立場には大きな違いがあることを示している。ガザ地区住民のなかには、国交正常化を肯定的にとらえる人もいる。しかし、アラブ・イスラエル紛争が解決しないうちは、イスラエルとの国交正常化は許されないと考える人が、両地域で最も多い。また、パレスチナ側がサウジアラビアや米国と、この国交正常化を受け入れるためのパレスチナ側の条件について交渉することには、70%以上の大多数が反対している。”

さらに、“パレスチナ内部の和解についても尋ねた。調査の結果、約2ヶ月前にエジプトのエル・アラメインという都市で行われた党派や運動の指導者の会合は失敗だったと大多数が考えており、失敗の責任をファタハ運動の指導者に求める人の割合の方が多いことがわかった。しかし、国民の3分の1は失敗の責任を他の当事者に押し付けている。”

エル・アラメインでの和解会議が失敗し、ハマスよりもファタハの指導者に大きな責任が負わされたにもかかわらず、ハマスの人気は3カ月前と変わっていない。ファタハの支持率については、ヨルダン川西岸地区とガザ地区の両方でわずかに改善している。おそらくその理由は、ガザ地区で最近行われた生活環境の改善を求めるデモ行進によって、ハマスの立場が改善しなかったことにある。

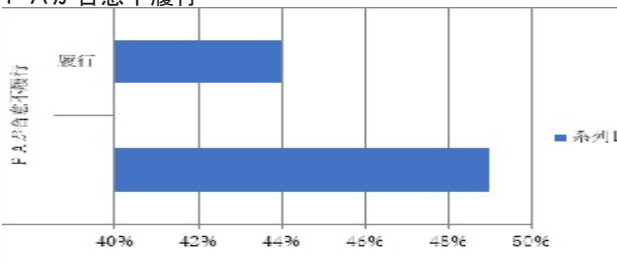
これもファタハのイメージアップに貢献したのかもしれない。アッバス議長については、ほとんどの知事が引退したことを踏まえて立場が若干改善した兆しはあるものの、改善の指標のほとんどは、彼とハマスのイスマイル・ハニエとの間で大統領選挙が行われれば、彼の支持率は若干上昇するものの、この2人の候補者だけが争う大統領選挙のボイコット率が高いため、といったものである。”

オリブの会通信 第34号 (通巻40号)

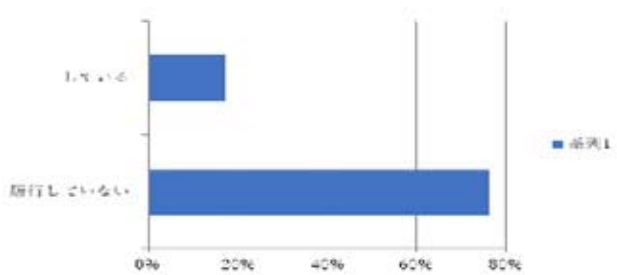
さらに、「最後に、パレスチナとイスラエルの関係について尋ねた。その結果、2国家解決策への支持率が大幅に上昇し、支持率は約3分の1になったが、入植地の拡大により、この解決策はもはや現実的ではないと考えている人が依然として大多数を占めている。これらの結果は同時に、非武装の民衆抵抗に頼ることを支持する割合が増加し、対立や武装インテッファダへの回帰を支持する割合も同様に増加したことを示している。また、入植者によって攻撃された町や村の住民から武装グループを結成することが、入植者のテロとの戦いにおいて、最も効果的な解決策であると考える割合が、ヨルダン川西岸地区の人口の半数に近づいた。

(1) オスロ合意について

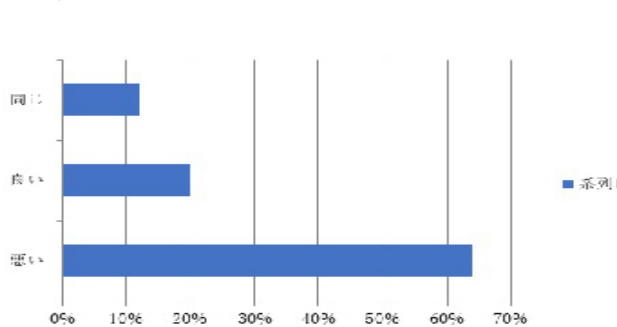
PAが合意不履行



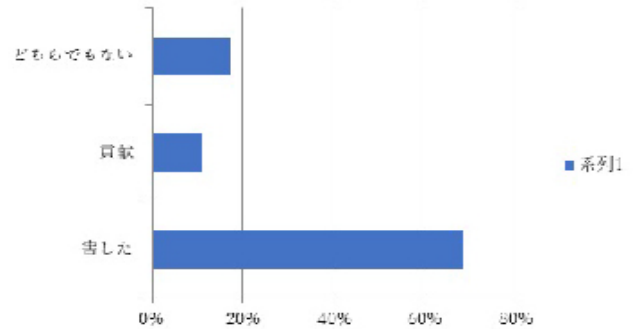
イスラエルは履行しているか



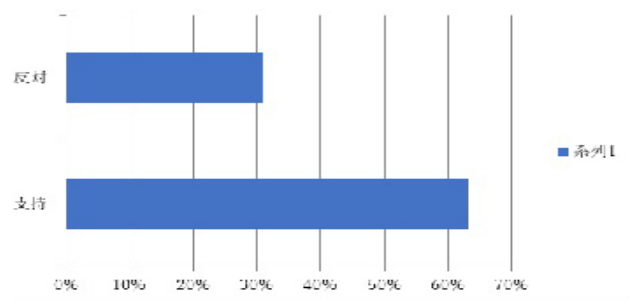
合意前より状況は



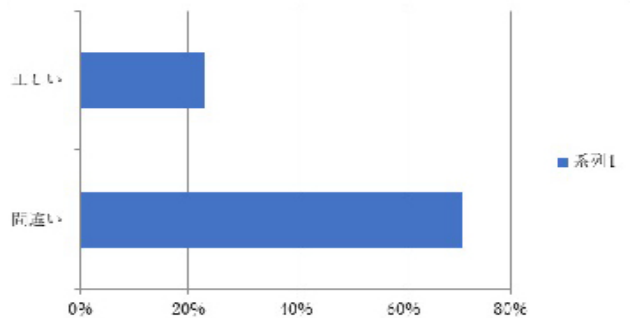
合意はパレスチナに貢献したか害したか



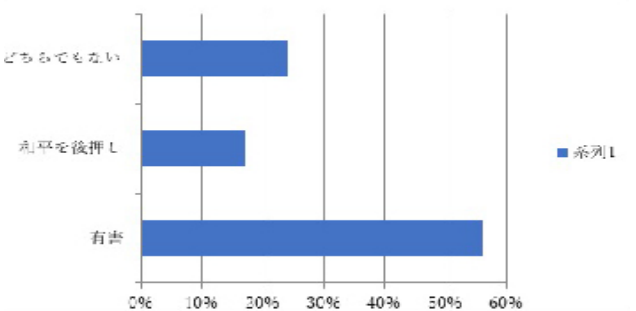
合意の破棄



調印



(2) サウジとイスラエルの国交の正常化について

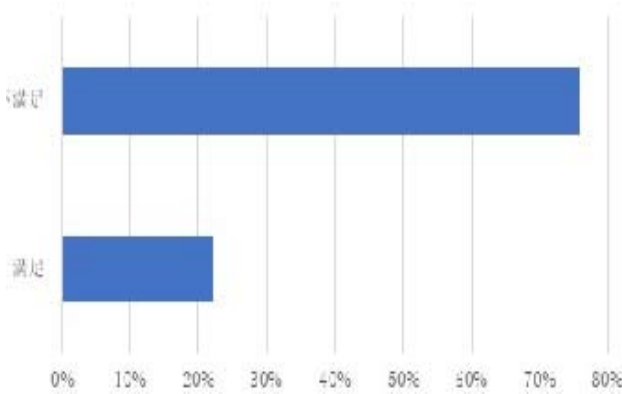


(3) 立法・大統領選挙

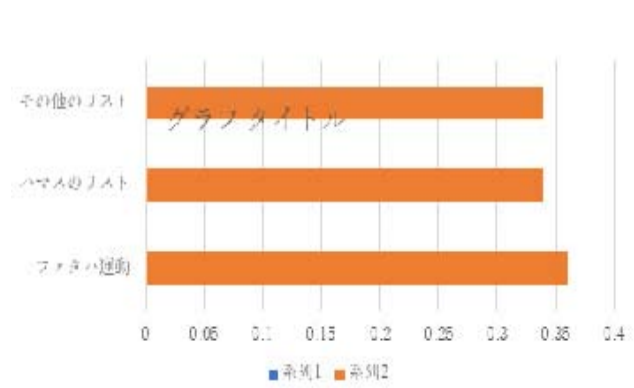
アッパースの後継者としてふさわしい

マルワン・バルグティ	34%
イスマエル・ハニヤ	17%
ムハマド・ダハラン	6%
ハレド・シャミール	5%
フセイン・アルシェイク	3%
ヤヒヤ・アル サンワル	3%
ムハマッド・シュタイエ	3%

アッバースのパフォーマンスに



選挙での投票先



2023年9月13日掲載 | 08:53 (PFLPのHPより)

1993年9月13日、ワシントンのホワイトハウス広場で、ビル・クリントン元米大統領立ち会いのもと、パレスチナ解放機構と占領国が調印した「和平」協定である。ビル・クリントンだ。この協定は、1991年に秘密会談が行われたノルウェーの都市オスロにちなんで命名されたもので、この協定は1991年のマドリード会議の延長線上にあり、第一次インティファダの結果と考えられている。

「オスロ」は、当時の外相シモン・ペレスに代表される占領国と、実行委員会書記マフムード・アッバスに代表されるパレスチナ解放機構との間の最初の直接的な公式合意と考えられている。この合意は、パレスチナ解放機構とパレスチナ自治政府との関係における転換点となった：

－ パレスチナ解放機構は、「イスラエル国家が平和と安全のうちに生きる権利」と、交渉を通じて恒久的地位に

関するすべての基本的な問題の解決に到達することを約束し、この原則宣言は「暴力」のない時代を開始し、それに応じて、組織は「テロリズム」の使用を非難する。そしてその他の暴力行為も非難する。”この変更に対応するために、国内憲章の条項を改正し、また、組織の全構成員にこれを遵守することを義務づけ、この状況に対する違反を防止し、“違反者”を逮捕することを自らの責務とする。

－ 「イスラエル」政府は、当時のイツハク・ラビン首相を通じて、パレスチナ解放機構の公約に鑑み、同組織をパレスチナ人民の代表として承認し、同組織との交渉を開始することを決定した。

原則宣言は、後に「パレスチナ自治政府」として知られるようになるパレスチナの「暫定自治」当局と、ヨルダン川西岸地区とガザ地区のパレスチナ人民のための選挙による立法評議会を、5年を超えない暫定期間中に設置し、2つの国連決議に基づく恒久的な解決に到達する

オリーブの会通信 第34号(通巻40号)

ことを規定している。国連決議 242 と 338 遅くとも暫定期間の 3 年目の初めまでに。

この合意では、エルサレム、難民、入植地、安全保障上の取り決め、国境、他の近隣諸国との関係や協力など、残された問題をこの交渉でカバーすることが規定された。

この協定の後には、「ガザ=ジェリコ」協定や「パリ」経済議定書など、さらなる協定、条約、議定書が続き、これらは「オスロ 2」と呼ばれるその後の条約に盛り込まれた。

協定の最も重要な文章

- パレスチナ解放機構は、テロリズムと暴力を放棄し(すなわち、イスラエルに対する武力抵抗を阻止し)、武力行動や“イスラエルの破壊”など、「国家憲章」のそれらに関連する条項を削除した。

- 「イスラエル」は PLO をパレスチナ人民の正当な代表として承認している。

同組織は占領国家(委任統治領パレスチナの領土の 78%)を承認している。

- 5 年以内に、「イスラエル」はヨルダン川西岸とガザ地

区の土地から段階的に撤退し、その最初のもは、パレスチナの土地の 1.5% を構成するエリコとガザである。

- 「イスラエル」は、ヨルダン川西岸地区とガザ地区から撤退する土地に自治権を確立するパレスチナ人の権利を認める。

- パレスチナ自治政府の管轄地域内に、パレスチナ人のための選挙による立法評議会を設置する。

- パレスチナ自治政府の管轄下にある地域の治安を維持するための警察組織を設立すること。

この協定には、自治領の治安を外部からの侵略から維持する責任は「イスラエル」にあるという条項が含まれていた。

3 年後、「恒久的地位交渉」が開始され、この間、恒久的な解決を目指して双方が交渉を行う。

この交渉には、以下のような残された問題が含まれる: エルサレム、難民、ヨルダン川西岸地区とガザ地区の入植地、安全保障の取り決めなどである。



2023 年 9 月 14 日 記事, コメンタリー, スライダー (パレスチン・クロニクルのHPより)

By ラムジー・バルード & ロマナ・ルベオ

7 月 30 日、レバノン南部で最も混雑しているパレスチナ難民キャンプのひとつ、アイン・エル・ヒルウェで戦闘が発生した。いったい何が起きているのか、そして

なぜパレスチナ人はそのことについて話さなければならないのか。

戦闘が始まって以来、少なくとも 28 人が死亡し、多くの負傷者が出ている。

戦闘はキャンプでの生活にどのような影響を与えたのか?

国連人道問題調整事務所 (OCHA) によると、7月下旬に始まった最新の戦闘により、数千のパレスチナ人家族がアイン・エル・ヒルウェからの避難を余儀なくされている。

また、BBCによると、砲弾はキャンプ外の地域にも到達し、いくつかの砲弾がレバノン軍の陣地に落下し、数人の軍人が負傷したという。

さらに、国連パレスチナ難民救済機関 (UNRWA) によると、6000人のパレスチナ人学生が新学期を迎えてもまだ学校に戻っていない。

後者は、キャンプでの暴力の直接的な結果であるが、反目するグループに属する戦闘員がUNRWAの学校やセンターを軍事拠点として利用していることにもよる。これまでのところ、同キャンプにおける経済損失は1000万ドルと見積もられている。

誰が戦闘に関与しているのか？

衝突には、PLOの主要な運動であるファタハのメンバーと、「ムスリム青年」と呼ばれるグループが関与している。度重なる停戦の話し合いにもかかわらず、水曜日に戦闘が再開された。

アルジャジーラ・ネットによると、「ファタハ運動は、決定的な軍事的勝利を得ることができないにもかかわらず、(軍事的に) 前進する努力を続けている」という。

ムスリム青年側は、昨年7月にパレスチナ国家安全保障の将軍アブ・アシュラフ・アルムーシを殺害した罪に問われている者たちの引き渡しを拒否している。

7月30日、アル＝アルムーシと他数名は、ムスリムユースの戦闘員による待ち伏せと思われる攻撃で殺害された。

最近の対立は、南レバノンの主要なパレスチナ人政治グループの代表で構成されるパレスチナ共同行動当局の支援の下、8月に1ヶ月間の停戦に達した後、勃発した。アルジャジーラ・ネットによると、キャンプでは様々な重火器やロケット弾が使用されており、特にB-10や60口径迫撃砲が使用されている。

誰が戦闘を止めようとしているのか？

パレスチナ共同行動機構は別として、いくつかのパレスチナの党派は、衝突に関与している人々に対し、直ちに戦闘を終結させ、停戦を尊重するよう呼びかけている。最初の衝突が発生した直後の8月1日、レバノンの抵抗組織ヒズボラのハッサン・ナスラは、致命的な衝突の停止を呼びかけた。

「この戦闘は、キャンプ住民や親愛なるパレスチナの

人々、レバノン南部、レバノン全土に悪影響を及ぼすため、続けてはならない」とナスラはテレビ演説で述べた。

ファタハ中央委員会のメンバーであるアッザム・アル・アハマドは、キャンプを訪問した際、「テロリスト集団がキャンプの性質を利用している。

ハマス運動が発表した声明によると、ハマス海外政治局副局長のムサ・アブ・マルズーク氏も9月13日水曜日、「アイン・エル・ヒルウェの状況を封じ込め、難民間の激しい衝突を終結させた停戦を強化するため」キャンプを訪問した。

しかし、アルジャジーラ・ネットが引用したハマスとイスラム聖戦の共同声明では、パレスチナの2大グループは、内紛を長引かせようとしている人々を批判している。

この言及は、ファタハによる、アル＝アルムーシ殺害の責任者らが逮捕されるまで戦闘は続くという声明と関連している。

独立系アナリストは何を言っているのか？

8月に発表された記事の中で、著名なパレスチナ人ジャーナリストのアブデル・バリ・アトワンは次のように書いている、

「アイン・エル・ヒルウェで起きていることは、ジェニンキャンプ襲撃のシナリオをレバノンのキャンプで再現し、その任務をPAに委任することで、パレスチナ間の争いを引き起こそうとするイスラエルの企てである可能性が高い。

「より高い目的は、南レバノンの治安と安定を損ない、ますます強大になるヒズボラを、国境で反抗と嫌がらせを強めているイスラエル占領軍との対決からそらすことだ」とアトワンは続けた。

「PAが治安部隊の目をレバノンに向けることは、レバノンだけでなく、パレスチナの大義にとっても、危険と隣り合わせのレッドラインを越えることになる」。

『パレスチナ・クロニクル』誌の社説として掲載された最近のシンジケート・コラムで、ラムジー・バルードは、「マフムード・アッバスのパレスチナ自治政府は(中略)ファタハの忠実な支持者が陣営を支配することを望んでおり、それゆえ南レバノンにおけるパレスチナのライバルの役割を否定しようとしている」と書いている。「アッバスの指導するPLOは、南レバノンの難民と彼らの帰還の権利をほとんど無視している。

「ひとつは、ファタハを正当化する材料として、もうひとつは、レバノンやその他のあらゆる場所で、欧米が

オリーブの会通信 第34号(通巻40号)

支援するパレスチナ陣営への批判や抵抗を食い止めるためである。

全体像とは？

アイン・エル・ヒルウェでの戦闘が、キャンプ内の武装解除されたパレスチナ人グループを狙った、より大きな政治的アジェンダの一部であることを心配するパレスチナ人も当然いる。

ファタハは長年、政治的主導権を取り戻す一環として、アイン・エル・ヒルウェの支配権を主張し、キャンプをラマッラのPAの傘下に置こうとしてきた。

また、戦闘が続けば、2007年にレバノン北部のナール・アル・バレド難民キャンプで起きた衝突のように、レバノン軍に圧力をかけてキャンプの支配権を取り戻させるという意見もある。

2007年5月、同キャンプはレバノン軍とファタフ・アル・イスラム*のメンバーとの戦闘の舞台となった。軍兵士3人を含む少なくとも10人が死亡した。

*ファタフ・アル=イスラムとは、レバノン北部トリポリ近郊のパレスチナ難民キャンプ、ナール・アル=バレドを拠点とする、スンナ派イスラム原理主義組織。

200～500人の構成員はパレスチナ人のほか、レバノンやシリア、サウジアラビアなど他のアラブ国籍の者が多数。指導者はシャーキル・アル=アブシー。アブシーがシリアの刑務所を出所後の2006年11月、シリアに本部を置くファタフ・インティファダの分派として設立した。

レバノンのパレスチナ難民の数は、経済的、社会的、政治的状況の悪化により、減少の一途をたどっている。

これらの難民は、かつてイスラエルに対するパレスチナの抵抗の支柱のひとつであり、帰還の権利(国連決議194号に明記された、歴史的パレスチナに戻るパレスチナ難民の権利)の言説を支持していた。

パレスチナ人がアイン・エル・ヒルウェについて語るべき理由

単に戦闘が止まることを願ったり、どちらか一方を非難したり、このテーマを完全に無視したりするだけでは十分ではない。

治安や人口構成の面で難民キャンプの状況に根本的な変化が起きれば、レバノンにいるすべてのパレスチナ難民にとって悲惨な影響が及ぶ可能性がある。

パレスチナ人は、レバノンにおけるパレスチナ難民と彼らの抵抗を疎外しようとする様々な政治的意図に対して、動員され、声を上げなければならない。

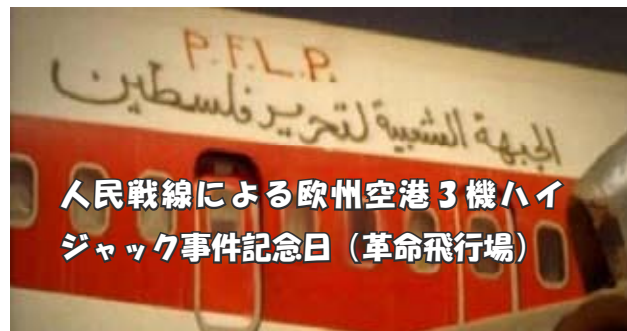
そのためには、政治的背景をより深く理解し、特定の政治グループが他のすべてのグループよりも優位に立つことを許すことのリスクを理解しなければならない。

しかし最も重要なことは、レバノンにおけるパレスチナ人やその他の罪のない人々の殺害に抗議し、同時にレバノン全体におけるパレスチナ人の社会的・経済的権利の拡大を要求することである。

<https://youtu.be/JV8ur8JbW9s>

– ラムジー・バルード博士はジャーナリスト、作家、『パレスチナ・クロニクル』編集長。著書は6冊。最新刊はイラン・パペとの共編著『Our Vision for Liberation』: 参加したパレスチナの指導者と知識人が語る』。その他の著書に『My Father was a Freedom Fighter』『The Last Earth』など。イスラム世界問題センター(CIGA)非居住上級研究員。ウェブサイトはwww.ramzybaroud.net。

– ロマーナ・ルベオはイタリア人ライターで、パレスチナ・クロニクルの編集長。彼女の記事は多くのオンライン新聞や学術誌に掲載されている。外国語・外国文学の修士号を持ち、オーディオビジュアルとジャーナリズムの翻訳を専門とする。

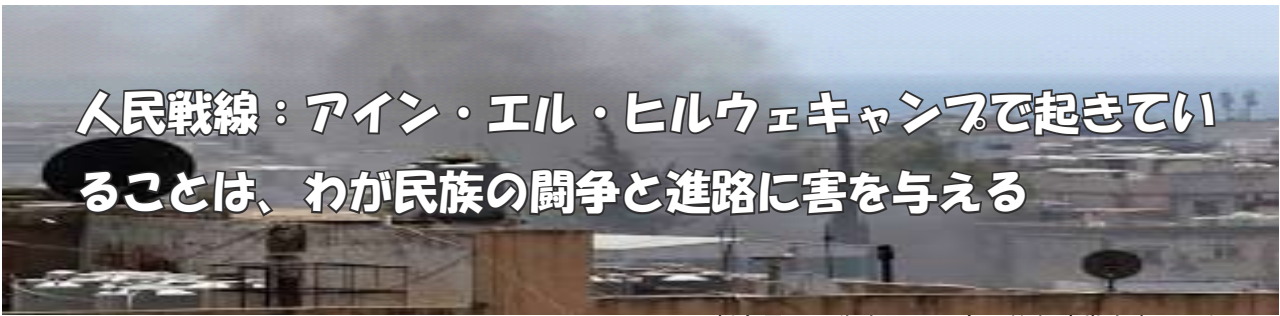


2023年9月6日掲載 | 09:13 (PFLPのHPより)

今日は、パレスチナ解放人民戦線がフランクフルト(ドイツ)、チューリッヒ(スイス)、アムステルダム(オランダ)の空港からニューヨークへ向かう3機の飛行機をハイジャックし、彼らを拘束してヨーロッパとイスラエルの刑務所に収容されているパレスチナ人戦闘員を釈放しようとした記念日である。

ハイジャック犯は、2機の行き先をヨルダン北東部のデュソン滑走路に迂回させ、3機目の行き先をカイロに迂回させて爆破した。

ハイジャックから3日後、戦線戦闘員(対外行動部隊)のグループが4機目の民間機をハイジャックした。当時、ゲリラたちは欧州の刑務所に収容されていた同志の釈放を要求していたが、その要求が拒否されたため、9月12日、国際メディアが注目する中、乗客を解放した後、3機の飛行機を爆破した。



人民戦線：アイン・エル・ヒルウェキャンプで起きていることは、わが民族の闘争と進路に害を与える

2023年9月13日掲載 | 22:25 (PFLPのHPより)

パレスチナ解放人民戦線は、アイン・エル・ヒルウェで起きている血なまぐさい衝突と、それに伴う悲劇、破壊、流血は、わが民族の闘争と闘争に害を及ぼし、パレスチナ人の大義を清算することを目的とした敵対的な意図に奉仕するものであり、その中心は難民問題であると考えた。

レバノンの指導部が発表した声明の中で、戦線は戦闘員に対し、停戦を完全に順守し、レバノンの軍、政党、治安機関の代表の参加と出席のもと、レバノンのパレスチナ共同行動当局の連続会議で合意されたすべてのことを実行に移すよう呼びかけた、特に、アブ・アシュラフ・アル・アルモウチ少将とその仲間、アブデル・ラーマン・ファルフードの暗殺という2つの犯罪で告発された者たちをレバノンの治安・司法機関に引き渡し、すべての軍事的示威活動を終結させ、避難民のキャンプ内の住居への帰還を促進するために直ちにに取り組むこと。

戦線は声明の中で、アイン・エル・ヒルウェキャンプにおける最近の危機の発生は、特に、兄弟国レバノンが公式にも一般的にも苦しんでいる経済的・社会的危機や、大統領職の空席とその様々な機関や政府部門への影響に照らして、多くの疑念と疑問符を投げかけるものであると指摘した。占領地内のパレスチナ人民に対するシオニストの激しい攻撃がエスカレートしていること、われわれの人民とその抵抗勢力の意思を打ち砕くことを目的としていること、そして、分割と連邦化プロジェクトを復活させ、アメリカ政権とその地域と世界における道具の欲望に従って地域の地図を塗り替えようとしていること。従って戦線は、わが人民のすべての政治的、社会的構成要素と勢力に対し、わが人民のためのパレスチナ最高の民族的利益を優先し、キャンプの安全と安定を守り、流血と財産の破壊を直ちに阻止し、わが人民を故郷と家に直ちに帰還させ、尊厳ある帰還の最低水準を確保するよう呼びかけた。

戦線は、キャンプを包囲しているレバノン軍の拠点で起きたことを強く非難・糾弾するとともに、軍の負傷者

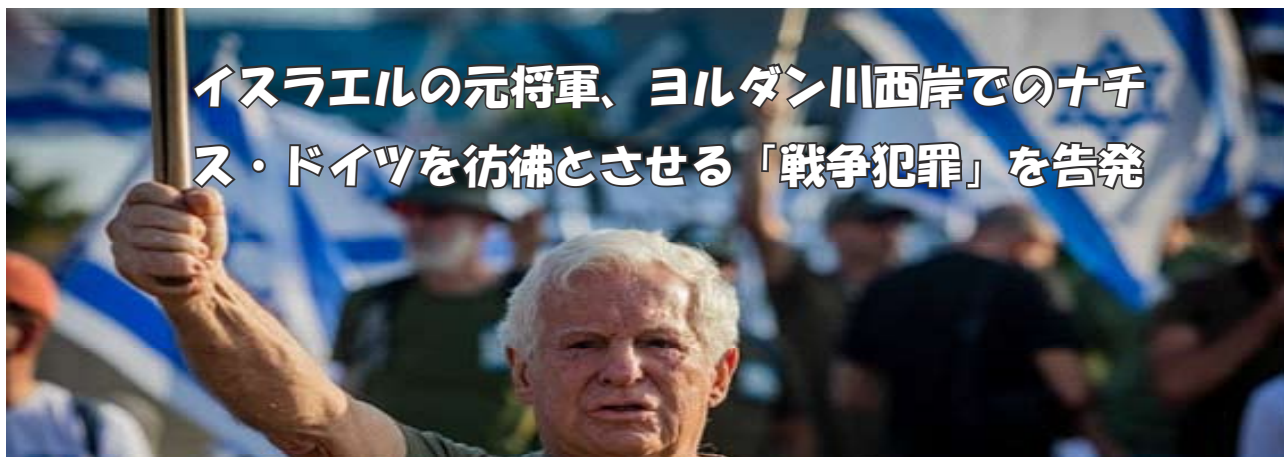
の一刻も早い回復を願い、全面的な連帯を表明した。

また、シドン市とその村々、町を襲った無差別砲弾と流れ弾、およびそれらが引き起こした負傷と物的・精神的損害を強く非難した。また、遺憾の意と連帯の意を表明し、彼らが受けた被害に対する忍耐と寛容に対し、あらゆる意味での感謝と謝意を表明した。また、停戦の即時実施に尽力し、貢献しているすべての人々、特にレバノン民族主義勢力、イスラム勢力、公的機関、治安当局、宗教団体、社会活動に携わる同胞に対し、最高の謝意と感謝の意を表した。

戦線は、周囲に大きな危険があるにもかかわらず、キャンプ内の自宅を離れなかったわが国民と、避難所や道路の歩道、広場で、裸足で地面に寝そべり、空を見上げながら、強制的に自宅を離れることを余儀なくされたわが国民に、敬意と感謝の意を表す。経済的にも、健康的にも、社会的にも、何十年もの間、民族の権利、とりわけ海から川まで解放されたパレスチナに戻る権利を守るために多大な犠牲を払ってきた民族にふさわしくない状況の中で。

戦線は、パレスチナの血の尊厳と、名誉ある小銃は常にシオニストの胸に向けられ続けなければならないという確固とした立場を確認し、わが民族の団結と公正な闘いを害するいかなる議題も包囲し、取り下げるという包括的なパレスチナのコンセンサスの重要性を強調し、わが民族、とりわけアイン・エル・ヒルウェキャンプの人々の能力と回復力に対する信頼を表明して、声明を締めくくった。彼らは苦い思いをしているにもかかわらず、あらゆる困難に耐えることができ、どんなに時間がかかり、どんなに犠牲が重くても、誓約と誓約、そしてパレスチナへの帰還の夢に永遠にコミットし続けることを喜んでいる。

パレスチナ解放人民戦線 - レバノン
2023年9月13日メディアオフィス



イスラエルの元将軍、ヨルダン川西岸でのナチス・ドイツを彷彿とさせる「戦争犯罪」を告発

ハイファ（イスラエル）-2023/07/03：ハイファ港外でのデモでイスラエル国旗を掲げるアミラム・レヴィン予備役大将。イスラエルがヨルダン川西岸の都市ジェニンで大規模な軍事作戦を開始したにもかかわらず、予定されていた抗議の一日を遂行することを誓い、司法制度の抜本的改革を目指す政府の取り組みに反対するデモ隊がハイファ港へのアクセスを妨害し、海外でも数十の集会が行われた。（写真 Eyal Warshavsky/SOPA Images/LightRocket via Getty Images / The New Arab）
（マンスリーレビュー誌より転載）

イスラエル軍は、占領下のヨルダン川西岸でナチス・ドイツに似た犯罪を犯している。

イスラエルの公共放送 Kan Reshet Betradio とのインタビューで、イスラエル軍北方司令部の元責任者アミラム・レヴィンは、占領地について次のように語った、

そこには57年間民主主義が存在せず、完全なアパルトヘイトだ。

「そこで主権を行使せざるを得ないイスラエル国防軍は、内部から腐っている……入植者の暴動を傍観し、戦争犯罪の片棒を担ぎ始めている……これらは深いプロセスだ」とレヴィンは続けた。

しかし、レヴィンが「プロセス」について詳しく尋ねられたとき、元将軍はナチス・ドイツを引き合いに出した。

「言いにくいことだが、これが真実だ。ヘブロンを歩いてみてください。アラブ人が通れなくなった通り、ユダヤ人だけが通れる通り。ナチス・ドイツのあの暗い国で起こったことと同じだ」とレヴィンは答えた。

台頭する極右

レヴィンの発言は、イスラエル政府の司法改革に反対する抗議集会でのスピーチで、イスラエルの極右閣僚イタマル・ベン・グヴィールとベザレル・スモトリッチを痛烈に攻撃し、彼らが「あなたたち（イスラエル人）を戦争犯罪に引きずり込もうとしている」と主張した後のことだ。

モサドの副長官でもあった将軍は、彼らの経歴を指摘し、入植者として「彼らは民主主義を知らない」と述べた。

アナリスト、人権団体、国連を含む国際機関は、イスラエルが不法占拠しているヨルダン川西岸でパレスチナ人に対して組織的なアパルトヘイトを行っているとは非難している。

ベンヤミン・ネタニヤフ首相率いる極右連立政権は、イスラエルのアパルトヘイト的政策をより露骨にし、否定しにくくしている。過激派の閣僚たちは暴力と差別を扇動している。

ここ数カ月、パレスチナ人に対する入植者の暴力とイスラエル国家による暴力の両方が増加しており、入植者がパレスチナの町を襲撃し、時には死に至るケースが何百件も発生している。

イスラエル軍は最近、占領下のヨルダン川西岸地区で多数の死者を出す襲撃を行い、今年に入ってから2022年までの間に殺害されたパレスチナ人の数を上回っている。

パレスチナ日誌

4月25日

- ・ヘブロン出身の若者に対する刺殺実行容疑での起訴
- ・カラワット・バニ・ハッサンでの衝突で「ゴム」による負傷と窒息
- ・占領軍、アカバト・ジャベル・キャンプの若者を逮捕
- ・占領軍、アル・ヤムーン出身の囚人の2度目の行政拘留を更新
- ・占領軍がハマラ検問所でトゥバスの市民を逮捕
- ・ネタニヤフ政権に反対する数万人のデモ

4月26日

- ・ナブルスの南、入植者たちがクスラの町を攻撃した
- ・アル・アクサ・モスクで入植者たちがイスラエル国旗を掲げた
- ・サウジアラビア、ハマス元代表の息子を釈放
- ・サコット地区で羊飼いを追う入植者たち
- ・ラジュンの廃村で数千人ナクバを記念した

4月27日

- ・サルフィット西部でブルドーザーが伐採され、数十本の木が根こそぎにされた。
- ・ベン・グヴィールがイブラヒミ・モスクを襲撃した
- ・数百人の入植者がヨルダン渓谷北部のアルデール・スプリングス地区を襲撃
- ・占領軍、ジェニンキャンプの若者2人を逮捕
- ・反シオニストのネットウレイ・カルタがエルサレムでイスラエルの占領を非難するデモを組織
- ・本日エ司法制度改革案を支持するデモがエルサレムで行われた
- ・国連での「ナクバ」記念行事。イスラエルが中止を迫る
- ・ヘブロン - 大工工房の差し押さえの前段階としての明け渡し通知
- ・サルフィット近郊で占領軍に殉教者ムハディス射殺された

4月28日

- ・占領軍がタナベ郊外の若者を逮捕
- ・占領軍、ビルジートの若者を逮捕
- ・占領軍がカバティヤの若者2人を逮捕
- ・子供が負傷占領軍によるジェニン襲撃時の衝突

4月29日

- ・アカバト・ジャベル・キャンプ襲撃の中、占領軍アリハ包囲を続ける
- ・カダー・アドナン受刑者、無期限ハンガーストライキを83日目も継続
- ・ツク' で子供が占領軍に殺された。
- ・カフル・カドゥムの行進に対する占領軍の弾圧による負傷者
- ・ナブルス州での占領軍との衝突で13人が負傷
- ・ホムス近郊を標的としたイスラエルの攻撃で市民3人が負傷した。
- ・占領軍、ラマツラ東部シルワドの若者を逮捕
- ・占領軍は8日目もエリコの町の包囲を続ける

4月30日

- ・トゥクでの占領軍との衝突
- ・イスラエルで「司法改正」に抗議するデモが再燃
- ・占領軍がイツサウィヤの若者を逮捕
- ・トゥルカルムで衝突 - ヨルダン川西岸とエルサレムで逮捕者
- ・占領軍がツク' の学校を襲撃し、生徒と教師に発砲した。
- ・入植者たち、デイル・シャラフで155本のオリブの木を折る
- ・サルフィット - 占領軍がザウィヤの町の西で農民を襲撃
- ・占領軍は10日連続でエリコの町を包囲し続けている。
- ・ペイト・ウンマル近郊で入植者が市民を轢く

5月1日

- ・ナブルス北部のモスクで入植者が導師を襲撃
- ・軍服姿でデモに参加したイスラエル軍将校が処罰される
- ・占領軍がガザ地区南部の農民にガス弾を発射

5月2日

- ・占領軍がエリコ包囲を強化

5月1日、

- ・シリアの都市アレッポ周辺におけるイスラエルの侵略
- ・外務省、殉教者カダー・アドナンを処刑した犯罪の状況に関する国際調査委員会の設置を要請
- ・ハマス：ハダー・アドナンの暗殺は計画的で冷酷なものだった
- ・人民委員会は、カーダー・アドナンで起きたことは、占領軍が償うべき暗殺であることを確認している。
- ・囚われの殉教者の魂のために - ヨルダン川西岸地区での一般追悼とスト
- ・トゥルカルム近郊で女性入植者が銃撃を受け負傷
- ・占領軍がヨルダン川西岸地区の市民13人を逮捕
- ・ベツレヘムでの囚人カーダー・アドナンの殉教を非難するスタンド
- ・ガザ - 座り込みテントと、カーダー・アドナン暗殺を非難するデモ
- ・アルビレ北部での占領軍との衝突で銃弾を受ける
- ・占領軍砲兵がガザ東部の標的を爆撃
- ・共同作戦室は「周辺入植地」に向けてロケット弾を発射する。
- ・殉教者カダー・アドナンの暗殺を拒否するヘブロンの座り込み
- ・占領軍が市民と外国人連帯活動家を逮捕（ヤッタ東部）
- ・ペイト・ウンマルの町での衝突で多数の市民が窒息した。
- ・アル・カーダーの町で占領軍との衝突が発生
- ・占領軍が検問所でトゥルカルムの若者を逮捕
- ・国連、カーダー・アドナン殉教の状況調査を要請

5月3日

- ・シュアファト・キャンプとジャバル・ムカベールでの対立
- ・ガザ国境での停戦合意
- ・占領軍は、ガザのレジスタンス本部、協定、武器庫を破壊したと主張している。
- ・占領軍、カルキリヤの獄中者ユーニス・ハイランの家を取り壊す
- ・サルフィット - 占領軍は、「アリエル」作戦の実行犯である殉教者ソフの家族の家を取り壊す。
- ・シュアファトキャンプの建物を占領軍が包囲した
- ・ジハード対立は終結したが、抵抗は続く
- ・シュアファト・キャンプの住居用建物の取り壊し
- ・続く迫害 - 解放された獄中者をエルサレムから追放する占領軍
- ・4月中の入植者と占領者による442件の攻撃

4月5日

- ・エルサレム4月中に殉教者1人、逮捕者774人、国外追放命令約494件
- ・占領軍、エリコ北部の住宅11棟に建設中止命令
- ・占領軍がベツレヘムの南で若者を銃撃
- ・占領軍がナブルスで3人の若者を暗殺
- ・目撃者 - ハワラ近郊で占領軍に射殺された殉教者、刺殺作戦が実行されたと主張
- ・占領軍はガザからの家具の輸出を禁止することを決定した、
- ・占領軍がヘブロンで10歳の子供を逮捕、学校を襲撃
- ・占領軍、旧ヘブロン市庁舎接収に向け退去命令
- ・イスラエル軍がガザ地区の警戒態勢を強化

5月5日

- ・ドーハ市内で占領軍との衝突が発生
- ・ガザ地区各地で、ナブルスとヨルダン川西岸地区を支援する大規模デモ行進が行われた。
- ・占領軍は14日連続でエリコを包囲し続ける
- ・カフル・カドゥムの行進への占領軍の弾圧の結果、金属弾で5人が負傷
- ・逮捕から数時間後、アトゥーン議員は「カテーテル処置」のために移送された。
- ・ピン・グヴィール：ライオンズの巣の殉教者の遺体を引き渡すことは「重大な過ち」

5月6日

- ・カルキリヤ南部、占領軍の銃弾で労働者2人が負傷

オリーブの会通信 第34号(通巻40号)

- ・ 占領軍、エルサレムの若者2人を暴行後に逮捕
- ・ 入植者たちはKafr El Dikのオリーブの苗木258本を根こそぎ折った。
- ・ ヘブロン南部で占領軍と入植者による襲撃を受け、市民4人が負傷、1人が逮捕された。
- ・ アルビレ北入口での占領軍との対立
- ・ カフル・カドゥム襲撃の際、銃弾で負傷した子供
- ・ 占領軍、カン・ユニの東でガス弾を発射
- ・ ネタニヤフ政権に反対するデモが18週連続で更新される

5月7日

- ・ ヨルダン川西岸とエルサレムでの数人の逮捕者
- ・ 過激派グリック率いる入植者たちがアル・アクサを襲撃
- ・ 欧州連合ジュブ・アル・ディブ」学校の取り壊しに衝撃を受ける
- ・ 占領軍がエリコの2軒の家と納屋を取り壊す
- ・ 占領自治体のクルーがシルワンの町を襲撃
- ・ 占領軍、カランディアで壁の建設中止と“コンテナ”の撤去を命令

5月8日

- ・ イスラエル最高裁判所、カーン・アル・アフマルの立ち退きに関する請願を却下
- ・ シェイク・イクリマ・サブリが捜査のため召喚される
- ・ 占領軍による村の閉鎖に抗議してシュファの住民たちが座り込みをする
- ・ 占領軍、エルサレム人の子ども2人を逮捕
- ・ ナブルスで衝突 - 占領軍はヨルダン川西岸地区の市民19人を逮捕
- ・ エルサレム前大臣を4ヶ月の行政拘留へ
- ・ 占領軍、ジェニンキャンプの解放された獄中者を逮捕

5月9日

- ・ 欧州連合(EU)、ベン・グヴィールの参加によりテルアビブでの公式式典をキャンセル
- ・ 占領軍兵士がパレスチナ人を誰もいない場所に連れて行き、ひどく殴った。
- ・ 名前とともに... イスラエルによるガザ侵攻で12人が殉教した
- ・ 子どもが負傷 - 占領軍、青年逮捕後にナブルスから撤退
- ・ 入植者たちの祝祭を守るため、シェイク・ジャラー地区の通りを閉鎖する。
- ・ 入植者たちがサルフィット西部に入植道路を建設
- ・ 占領軍の爆撃でガザ地区の住宅11戸が破壊される
- ・ 占領軍はジェニンキャンプから解放された獄中者を逮捕し、ナズレット・ザイドを襲撃した。

5月10日

- ・ カパティアで占領軍の銃弾により殉教者2名と負傷者1名
- ・ ヨルダン川西岸地区での襲撃と逮捕
- ・ ラマツラで占領軍と入植者による攻撃により3人が負傷
- ・ 占領軍がヘブロン県民11人を逮捕、うち子供6人
- ・ ガザ侵攻2日目、死者1人、負傷者1人
- ・ ハン・ユニスで殉教者1名、負傷者1名 - 侵略2日目の連続空爆
- ・ レジスタンスは入植地とテルアビブに向けて強烈なミサイルを発射した。
- ・ 占領軍がガザ北部を標的とした結果、死傷者1名
- ・ アラブ連盟は侵略を非難する
- ・ イスラエルの女性兵士がレジスタンスの銃撃により重傷を負った。
- ・ ガザでの殉教者は20人に上る
- ・ パニックと混乱... 1時間以内に270発以上のミサイル
- ・ 占領軍、エルサレム旧市街の若者2人を逮捕
- ・ 占領軍、アル・タハディ第5学校を1週間で2度目の取り壊し
- ・ 占領軍、アル・ドゥユック・アル・タタで3軒の家屋を取り壊す

5月11日

- ・ 今日... 侵略による死者は22人、負傷者は64人に上った。
- ・ レジスタンスは入植地とテルアビブに向けて強烈なミサイルを発射した。
- ・ “自由民衆の復讐”数百発のミサイルは侵略への対応の始まりだ
- ・ 停戦の話にもかかわらず、ガザへの空爆とテルアビブへのミサイル発射。
- ・ 占領軍情報部はエルサレム知事を拘束し続ける
- ・ 占領軍はガザから507発のミサイルが発射され、我々は147の標的を爆

撃した。

- ・ 国連、ガザでのエスカレーションに深い懸念を表明し、自制を求める
- ・ 占領軍、ヨルダン川西岸地区の市民23人を逮捕
- ・ 25人の殉教者 - 占領軍は3日もガザ包囲を続ける
- ・ トウルカルムのヌール・シャムスキャンプ襲撃で負傷者2名、若者4名逮捕
- ・ 占領軍、エルサレム州知事のヨルダン川西岸地区入りを阻止する決定を更新

・ 侵略3日目：3人の殉教者とイスラエルの新たな空襲

- ・ 入植者がナブルス南部の土地をブルドーザーで破壊
- ・ 米英、国連ガザ侵攻を非難する声明を発表を阻止
- ・ アルアルブ・キャンプ近くで入植者が少女を轢く
- ・ 占領海軍はアルクツ旅団の陣地爆撃に参加し、占領軍は航空機で農地を爆撃している。
- ・ イスラエルがジハード運動の著名な指導者を暗殺

5月12日

- ・ エルサレム旅団の指導者2人を含む、侵攻3日目の殉教者5人
- ・ レジスタンスのミサイルにより入植者1人が死亡、8人が負傷した。
- ・ 入植相、奇跡的に抵抗ミサイルから生還
- ・ 夜襲で侵略の殉教者が30人に増加
- ・ 占領軍がガザの191の標的への攻撃を発表
- ・ 侵略4日目：ラファとデイル・アル・バラで空爆が再開、殉教者が負傷で倒れる
- ・ 3発の銃弾が彼の体を貫通した - 若いタエル・バキラットは逮捕されながら病院に横たわっている
- ・ 占領軍はラファを爆撃し、レジスタンスのミサイルは入植地に向けて更新された。
- ・ ラマラ東部で入植者の銃弾に若者が負傷した
- ・ レジスタンスのミサイルがエルサレムに向かっている。
- ・ テルアビブは交渉を中断し、侵略の拡大に備える
- ・ 占領軍、エリコのアイン・アル・スルタン・キャンプの活動家を逮捕
- ・ 侵略4日目 - 新たな空襲がガザの家屋を破壊し、死傷者を出す
- ・ 暴行と殴打 - 占領軍がエルサレム人活動家ムハンマド・アブ・アル＝フムスを逮捕
- ・ カフル・カドゥムで3人の若者が占領軍の銃弾で負傷
- ・ アルクツ旅団の作戦部隊長が、ガザの民家を爆破した際に暗殺されたこと。
- ・ ベイト・ウンマルでの対立による窒息
- ・ ハマスレジスタンスの攻撃は、占領軍にその罪の代償を払わせるために、断固として拡大される。

5月13日

- ・ ベツレヘム北口での占領軍との衝突で銃弾を受け重傷を負う
 - ・ アルアルブ・キャンプでの衝突で、4人の若者が占領軍の銃弾により負傷、うち1人は重傷。
 - ・ カルキリヤの東、アズンで3人の若者が占領軍の銃弾で負傷した。
 - ・ エルサレムでの散発的な対立
 - ・ イスラエルによるガザ地区への新たな空爆とレジスタンスの対応
 - ・ リーベルマン：ネタニヤフは2009年以來、ハマスに対して失敗してきた
 - ・ ワクフ：占領軍はガザの墓を標的にしている
 - ・ 占領軍がベイトラヒアの家屋を破壊
 - ・ ガザで負傷者3人、家屋3棟が損壊
 - ・ イスラエル人3人が負傷 - レジスタンスはロケット弾を撃ち続ける
 - ・ 午後10時からの休戦のニュース
 - ・ アフメド・アタトレ、ジェニンで占領軍の銃弾に倒れる
- ### 5月14日
- ・ 刺そうとした若者が撃たれる
 - ・ アイーダキャンプでのナクバ記念行事に対する占領軍の弾圧による窒息傷害

- ・ 占領軍はガザ侵攻開始以来、371の標的を爆撃した。
- ・ 占領軍、タムウン出身の青年を逮捕
- ・ ベツレヘム西部で占領軍と対立し、窒息した。
- ・ イスラエル軍がガザ国境でドローンを撃墜
- ・ 青年が負傷 - 占領軍はハワラ作戦の実行犯を逮捕したと主張
- ・ 外務省は国際刑事裁判所に対し、ビン・ガーフィルに対する召喚状と逮捕状を発行するよう求める
- ・ 占領軍、エルサレム市民にジャバル・ムカベールの住居の取り壊しを強要
- ・ 占領軍の大砲がガザ地区北部のレジスタンス観測所を砲撃

5月15日

- ・ ナブルスアスカル・キャンプ襲撃で市民1人が死亡、1人が負傷
- ・ 占領軍がヨルダン川西岸地区の市民5人を逮捕

5月16日

- ・ 占領軍の無人機がトゥルカルムに落下
- ・ ナクバを記念して国連前デモがガザで行われた
- ・ エルサレム占領 記念日に過激派が呼びかけ - アル・アクサでの襲撃、
- ・ シリア公式代表団がサウジアラビアに到着
- ・ ヨルダン川西岸とエルサレムで逮捕者... アカバト・ジャブル・キャンプ襲撃で青年が負傷
- ・ ジェニン襲撃時の3人の負傷者と市民の逮捕

5月17日

- ・ サルフィット占領軍はハリス村を襲撃し殉教者スーフの写真を没収
- ・ 警戒態勢を強化... 20万人の入植者がメディア行進に参加
- ・ サルフィットの西にある商業店舗を取り壊すよう通告される。
- ・ ディール・イブジにおける占領との対立
- ・ 占領軍、作戦実行計画の疑いでパレスチナ人を逮捕

5月18日

- ・ スモトリッチ、ヨルダン川西岸に50万人の入植者受け入れを命令
- ・ 入植者がエルサレムとアル・アクサを侵害
- ・ エルサレム旧市街で入植者たちが若者を襲撃

5月19日

- ・ 占領軍がガザの旗のデモ行進に発砲と催涙ガスを浴びせる
- ・ 数千人の入植者がエルサレムで“フラッグ・マーチ”に参加
- ・ エジプト、アル・アクサ・モスクの襲撃と入植地の“旗行進”を非難
- ・ シリア大統領、アラブ首脳会議参加のためサウジアラビアに到着
- ・ 占領軍が市民4人を逮捕、トゥルカルム東部の大工工房を爆破
- ・ 占領軍、アル・ムガイル村の市民4人を逮捕
- ・ 占領軍がサヌールの若者2人を逮捕
- ・ 数百人の入植者がアル・アクサ・モスク周辺を襲撃
- ・ エルサレムの路上での入植者の行進と散発的な対立
- ・ ジェッタ... ゼレンスキーの出席とアル・アサドの参加でアラブ首脳会議が開催
- ・ カリュト、 Beit・ダジャン、ベータでの占領軍との衝突による負傷者
- ・ カフル・カドゥムの行進鎮圧で負傷者3人
- ・ Beit・ウンマルでの占領軍との衝突で窒息の負傷者
- ・ ジェッタ宣言」はパレスチナ問題の中心性を強調

5月20日

- ・ 占領軍がBeit・ウンマルの町を襲撃、少年を逮捕
- ・ 占領軍、マサファー・ヤッタで兄弟3人を含む市民6人を逮捕
- ・ 8日目：占領軍がアル・ムガイル村の両入口を閉鎖
- ・ 占領軍がシュファの土地5ドノムを接收
- ・ 占領軍、アル・トゥール出身の青年を逮捕
- ・ アル・アクサの門で挑発的な踊りを入植者たちが披露する
- ・ 市民が入植者の銃弾で負傷（ナブルス南部）
- ・ 入植者たちがアル・トゥールを襲撃 - 学校を襲撃しようとした。銃撃と投石
- ・ ジェニンの南西、軍の検問所付近で少年が占領軍の銃弾により負傷した。

- ・ ジェニンの南西、軍の検問所付近で少年が占領軍の銃弾により負傷した。

5月21日

- ・ テルアビブでネタニヤフ政権に対するデモが再燃
- ・ ヘブロン東部で入植者の車が銃撃される
- ・ G7、2国家解決に向けた措置を要請
- ・ 占領軍がエルサレムで若者を逮捕
- ・ 占領軍、入植者の“ホメシュ”への帰還を正式に許可
- ・ 占領軍治安担当大臣がアル・アクサを襲撃し、人種差別的発言を行う
- ・ 9日目：占領軍はラマツラの東にあるアル・ムガイル村の両入口を閉鎖
- ・ 負傷者 - アルハダーの町での占領軍との対立
- ・ フワラでイスラエル軍兵士がひき逃げされ負傷
- ・ エルサレムのアル・トゥールとシュアファト・キャンプでの対立
- ・ シルワンの町のエルサレム人4人が逮捕される

5月22日

- ・ ネゲヴ・フォーラムがモロッコで開催される。
- ・ 若者が負傷 - 占領軍がジェニンで若者3人を逮捕
- ・ 占領軍、ラマラのウム・サファ村の家屋を取り壊す
- ・ 数十人の入植者がアル・アクサ・モスクを襲撃
- ・ 占領軍がアブードで14ドノムを接收
- ・ 占領軍がマサファー・ヤッタの住宅と住居用テントを取り壊す
- ・ 占領軍、フムサ・アル・ファウカから4家族の退去を命じる
- ・ ナブルス近郊で入植者の車が銃撃される
- ・ ニリンの殉教者モアタズ・カワジャの家を爆破する占領軍

5月23日

- ・ ヨルダン川西岸地区での逮捕運動、カバティヤ襲撃時の負傷者たち
- ・ トゥルカルムの東にあるバラアの町を占領した。

5月24日

- ・ ヨルダン川西岸地区での武力衝突と逮捕
- ・ エルサレムのスール・バヘル村での取り壊し - 撤去作業
- ・ 占領軍、シルワンの自宅を襲撃した子供を逮捕
- ・ シン・ベト、テロ計画容疑でウンム・アル・ファーム在住者の逮捕
- ・ 占領軍のブルドーザーがジャバル・ムカベール村を襲撃
- ・ 続く取り壊し作業 - エルサレムで占領自治体が家屋を取り壊し、土地をブルドーザーで切り崩す
- ・ 数十人の入植者がアル・アクサ・モスクを襲撃
- ・ 欧州連合 (EU)、イスラエルによる入植者のホメシュ帰還を非難
- ・ ジェニン西部での占領軍との対立で窒息したケース
- ・ ブルカへの入植者襲撃で実弾を受け負傷

5月25日

- ・ 占領軍によるアカバト・ジャブル・キャンプ襲撃時の負傷者と逮捕者
- ・ 占領軍がヨルダン川西岸で大規模な逮捕作戦を開始
- ・ 数十人の入植者がアル・アクサを襲撃、“トラー啓示の祭典”を祝う
- ・ 続く包囲 - 若者のアル・アクサ入場を阻む
- ・ 占領軍がガザ地区東部国境に向けてガス弾を発射
- ・ 入植者、Beit・ウンマルの小麦5ドノムを破壊
- ・ 包囲と礼拝者の入場制限の中、数十人の入植者がアル・アクサを襲撃
- ・ Beit・ウンマルでの窒息と解放囚の逮捕

5月26日

- ・ 国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA)：財政援助の大幅削減を通告してきた国もある。
- ・ 獄中者ワリード・ダッカの救出を求めるガザの大規模集会
- ・ 占領軍、カバティヤとファクアアの若者2人を逮捕
- ・ ヘブロン近郊の入植地に潜入した青年が撃たれる
- ・ 占領軍がバラタキャンプの市民を逮捕
- ・ ヘブロン南部で入植者の銃弾に倒れた若者
- ・ ラマラ東部で4人が負傷、入植者が車両5台と干し草270俵を焼却
- ・ 占領軍、エルサレム旧市街の少年2人を逮捕

5月27日

- ・ カフル・カドゥムの行進に対する占領軍の弾圧で負傷者が出た。

パレスチナの歌

Freedom for Palestine by OneWorld

2011年7月3日、難民キャンプやイスラエル占領下でパレスチナ人が日々直面している人権侵害と圧倒的な貧困に応じて、国際ミュージシャンのグループがワンワールドから「パレスチナへの自由」という曲をリリースした。

ロジャーズ・ウォーターズ、マッシュヴ・アタック、ローキー、マーク・トーマス、ジュリー・クリスティ、サミ・ユスフ、ケン・ローチ、ビリー・ブラッグなどのミュージシャンやアーティストが、イスラエルの不法占拠に対するこの歴史的な挑戦に賛同している。

歌詞

長年の大惨事

600万人以上の難民

それはあなたとあなたの家族かもしれない

故郷と歴史を追われた

私たちこそが

そして今こそ

立ち上がれ

歌おう

パレスチナのために

壁を壊そう

パレスチナに自由を

すべての人に正義を

パレスチナに自由を

信仰やコミュニティに関係なく

これは人道に対する罪だ

収容所と化したガザ

ヨルダン川西岸を分断するアパルトヘイトの

壁

私たちは人民だ

そして今こそ

立ち上がれ

歌おう

パレスチナのために

壁を壊そう

パレスチナに自由を

すべての人に正義を

パレスチナに自由を

不法占拠はもうたくさんだ

暴力と人種隔離

すべての宗教団体が団結する

自由は人権である

壁を壊そう

パレスチナに自由を

すべての人に正義を

パレスチナに自由を

28 Jul 2014

おいしいパレスチナ

マフトゥール (パレスチナ産小麦の真珠、野菜、ひよこ豆、鶏肉のシチュー仕立て)



パレスチナの中中部と南部では、マフトゥールは通常、沸騰したスープ鍋で蒸し焼きにして調理されるが、鍋のふちを生地で塞いで蒸気を完全に閉じ込め、マフトゥールが均一に調理されるようにする。このレシピでは、蒸すだけよりも簡単に短時間で、しかもふわふわの粒ができる、煮ると蒸すのを組み合わせた方法を採用した。レシピ詳細

4～8人前

玉ねぎ、ひよこ豆、バターナッツカボチャ、柔らかな鶏肉入りのスープシチューに、全粒粉で作ったキャビア大のパールを入れる。

材料

スパイスチキンストック

骨付き、皮付きの鶏肉4枚(約2.4ポンド; 1kg)(胸肉4枚、脚肉4枚、またはその組み合わせ)

エキストラバージンオリーブオイル 大さじ3 (45ml)

イエローオニオン(さいの目切り) 中1個(8オンス; 226g)

ダイヤモンドクリスタルのコーシャーソルト大さじ1 (9g)。

轆きキャラウェイ 小さじ2

挽きクミン 小さじ2

挽いたオールスパイス 小さじ1

挽きシナモン 小さじ1/2

挽きたて黒胡椒 小さじ1/2

トマトペースト 小さじ1(お好みで)

ベイリーフ 1枚

バターナッツ・スクワッシュ・ブロスを作る:

エキストラバージンオリーブオイル 大さじ2 (30ml)

厚さ1/4インチにスライスした黄タマネギ、中1個(8オンス 226グラム)

バターナッツ・スクワッシュ(皮をむき、1インチ大のさいの目に切る) 中1/2個(2.5ポンド; 1kg)

1クオート(1L)のスパイスチキンストック。

水切りして洗ったひよこ豆缶(425g)1缶

マフトゥールを作る:

エキストラバージンオリーブオイル 大さじ1 (15ml)

無塩バター 大さじ1 (15g)

マフトゥール 1ポンド(453g)(注参照)

スパイスチキンストック 2.1/4カップ(532ml)

鶏肉

エキストラバージンオリーブオイル 大さじ1 (15ml)

トマトペースト 小さじ1 (5ml)

ギリシャヨーグルト 大さじ1 (15g)

コーシャーソルトまたは海塩、挽きたての黒胡椒

作り方

スパイスチキンストックを作る: 大きな鍋またはストックポットに沸騰した湯を入れ、鶏肉を2分間ゆでる。鶏肉を皿に移し、水を捨て、鍋を洗って水気を拭き取る。鍋にオリーブオイルを入れ、中

火にかける。玉ねぎ、塩、キャラウェイ、クミン、オールスパイス、シナモン、黒こしょう、トマトペースト、ローリエを加え、玉ねぎがしんなりしてスパイスの香りが立つまで約2分かき混ぜる。2クオート(1.9L)の水と取っておいた鶏肉を加え、沸騰させ、表面の泡を取り除く。鶏肉を丁寧に取り出し、切り口が崩れないように注意しながら、皮の面を上にして縁のある天板に並べる。ブイオンを濾し、固形物を捨てる。

バターナッツ・スクワッシュ・ブロスを作る: ダッチオーブンにオリーブオイルを入れ、中火にかける。スライスした玉ねぎを加え、よくかき混ぜながら、しんなりし、端がきつね色になるまで5分ほど煮る。バターナッツスクワッシュを加え、よくかき混ぜながら2分ほど煮る。ひよこ豆と一緒に1クオート(1L)のスパイス入りチキンブイオンを加え、煮立ったらバターナッツ・スクワッシュが柔らかくなるまで約20分煮る。温めておく。

マフトゥールを作る: 3～4リットルの鍋にオリーブオイルとバターを入れ、バターが溶けるまで中火にかける。マフトゥールを加え、軽くトーストした香りがするが色が濃くならない程度まで、混ぜながら5分ほど加熱する。スパイス入りチキンブイオン2.1/4カップ(532ml)を加え、ぴったりと蓋をして煮立てる。火を弱め、マフトゥールが煮汁を吸収するまで蓋をして煮る。火から下ろし、ふたの下にペーパータオルが清潔なキッチンタオルを敷き、15分置く。

鶏肉を焼く: プロイラーのスイッチを入れ、オーブンのラックを2番目に高い位置にセットする。小さなボウルにオリーブオイル、トマトペースト、ヨーグルトを入れ、よく混ぜ合わせる。塩と胡椒で味を調える。ヨーグルトを混ぜたものを、取っておいた鶏肉の皮の面全体に塗り、皮がきつね色になるまで約5分焼く(焼き時間はプロイラーの強さによって異なるので注意。)

盛り付けは、マフトゥールをフォークでふんわりとさせ、大きめの皿にスプーンで盛る。バターナッツ・スクワッシュをお玉ですくってかけ、マフトゥールが汁っぽくならない程度のスープをかける。鶏肉をのせ、バターナッツ・スクワッシュのスープを添える。

注意事項

マフトゥールはスーパーやオンラインショップで広く手に入るようになったが、手に入らない場合は、フレゴラ・サルダ、ジャイアント・クスクス、あるいは極粗粒のブルグルで代用できる。

作り置きと保存

バターナッツ・スクワッシュのスープとマフトゥールは別々に冷蔵庫で3日間保存できる。鶏肉は調理したその日に食べるのがベストだが、残った鶏肉は冷蔵する前に細切りにしてスープに加えることができる。



サブラとシャティーラの虐殺から 41 年
2023 年 09 月 16 日



農業パレスチナのオリーブ生産、今年は大幅に減少か 09/16/2023



アル・アワウダ、172 日間のハンガーストライキ
によって解放される 09/15/2023



カリキュラムとの戦い - パレスチナ・カリキュラムの本の没収 08/31/2023

今号の内容

- オスロ合意から30年のパレスチナ..... 1
- 世論調査オスロ合意..... 3
- 不運な「オスロ合意」協定調印記念日..... 5
- アイン・アルヒウエについて語るべき理由..... 6
- PFLP：アイン・アルヘルウエについて..... 9
- イスラエルの元将軍戦争犯罪を告発..... 10
- パレスチナ日誌..... 11
- パレスチナの愛した歌..... 14
- おいしいパレスチナー..... 15
- トピック..... 16



ガザ... モロッコ地震被災者への連帯のスタンド
09/11/2023



イスラエル当局、アル・アラキブを 221 回目の取り壊し
09/11/2023



数万人がネタニヤフ政権に反対するデモを 36 週連続で実施 09/09/2023